

発表要旨

所属 岩手南部森林管理署遠野支署	
課題名	スマートフォン地図アプリの請負事業体向けマニュアルの作成と普及活動
発表者	○ ^{あらい} 新井 ^{じゅんこ} 潤子（森林官（宮守担当区）） ^{さいとう} 齊藤 ^{けんじ} 謙二（森林情報管理官） ^{こばやし} 小林 ^{あきひと} 明仁（事務管理官（管理担当））
1	はじめに スマートフォンが普及し便利なアプリが増えている昨今、スマートフォンにGPS対応地図アプリを導入することで、GPS機器と同じような機能を持つだけでなく、通信機能を使って情報の共有が迅速にできるようになり、事業の効率化や安全性の向上が期待できます。森林管理署等における森林整備を行う請負事業箇所は、奥地森林が多く、地形が複雑で林道から遠い箇所もあり、当該機能の上記特徴を活かせば、円滑な事業実施に加え、請負事業箇所の錯誤回避や緊急事態発生時の位置情報の確認等にも有効であると考えられますが、森林整備を行う事業体ではほとんどGISデータの活用が進んでいないのが現状です。
2	取組・研究方法 そこで、スマートフォンやアプリの操作に不慣れな方でも簡単に導入することができる操作マニュアルを作成し、普及活動を行うことにしました。 まずは、様々なスマートフォン地図アプリを調査し、今回の取組をする上で親和性が高いと思われるアプリを検討しました。次に、操作マニュアルを作成し、実際に支署発注の製品生産事業や松くい虫防除事業等を請け負った事業体職員に使用していただきました。
3	結果 アプリの選定としては、本取組を行うにあたり①取り込む国有林野データがベクタデータでファイルサイズが小さいこと、②取り込んだベクタデータが林小班ごとに識別できること、③作成したデータの管理が容易であること等を考慮し、様々な地図アプリの中から今回の森林・林業技術交流発表の対象として試行するものを選定しました。 マニュアル作成にあたっては、アプリ画面の画像を多く使用し、操作の流れが分かりやすいよう工夫しました。更に事業体向けとして、国有林野データの取り込み、様々なデータの作成、作成したデータの管理について請負事業体職員が使用しやすいよう改良を重ね、完成したマニュアルを用いて実際に事業体へ普及活動を行いました。
4	考察・結論 マニュアルは冬期に完成したため、あまり多くの事業体へ普及できませんでした。普及活動ができた事業体の方からは、分かりやすく使いやすい、今後活用していきたい等好評を得ました。今後も調査検討や、普及活動を進め、請負事業体における事業の効率化、安全性の向上につなげていきたいと思っております。